

(8) 総合的な学習研究会

会 長 益永 美佳 (八束小)
副会長 濱口 洋人 (中村小)
事務局 萩原 直幸 (中村西中)

1. 研究主題 「探究的な学びを実現する総合的な学習の時間の進め方」

2. 研究経過

実施年月日	研究のあらまし	会場	備考
令和6年 5月7日(火)	四万十市教育研究会 組織総会 内容：役員選出、研究主題決定、年間計画	中村中学校	13名参加
令和6年 8月2日(金)	四万十市教育研究会 夏季研究会 内容：四万十市の自然や歴史について学ぶ 講師（四万十市役所生涯学習課 川村慎也氏）	中村中学校	13名参加

3. 夏季研修の具体的な内容

四万十市を教材とした総合的な学習の時間に取り組むことの弱さが教員自身にあると、第一回の話し合いで出てきていました。原因として、四万十市外の教員や若年教員の増加にあると考えました。そこで、夏季研修では、四万十市の自然、街づくり、歴史、文化など多方面に詳しい川村慎也さんを講師に招き、四万十市についての講義を行っていただきました。講義では、四万十川の特徴に始まり、一条氏の歴史、中村や具同地域の役割等、多岐にわたる話をしていただき、有意義な時間になりました。講義のあとは、同じ地区の小・中学校が集まり、現在の自校での取組や今後の予定を交流することができました。

4. 今年度の成果と課題

【成果】感想より

○自分自身四万十市についてあまり知識がなく、誰もが知っているような情報しか知らなかったため詳しく知ることができ、とても学びが多かった。また、小学校でどんな総合を学んで進学してくるのか知る良い機会にもなった。地域の人たちと協力することで学校で学ぶより多くのことを学ぶことができ、生徒の意欲だけでなく成長にもつながると感じた。

○自分の学びとして四万十市について詳しく知ることができた。特に川周りの都市として四万十川との関係性は切っても切れない関係にあるということもわかりました。それが地名などにも表れており地域のあり方もまた勉強になりました。他には歴史や文化についても学ぶことが多く、小京都と呼ばれる地域に愛された一線公についても一線大祭とともに現在にまで受け継がれた文化をこれから担っていく生徒たちを育てていきたいと思いました。

【課題】

- 統廃合などにより、中学校区が広がり、小学校同士の情報交換をどうしていくのか。
- 働き方改革が言われている中、計画などの学年団同士のすり合わせをどうしていくのか。
- 教員の知識だけでは地域の情報を得ることに限界があるため講師の確保は必要。

●四万十市の様々な視点について情報を提供してもらえる講師を継続して確保できるかが今後の課題。

【次年度に向けての方向性】

- ・今年度のように講師を招いて、教員の教養を深めることが better である。

